**利用者のニーズに合わせた介護を目指して**

はじめに

認知症フロアには、利用者によってさまざまな疾患を持っておられ、日々職員は利用者に合わせた介護を目指してケアを行っています。認知症利用者と関わる中で受け持ちCW・NSだけでは解決できないことも出てきます。担当がついている為、どうしても担当がメインで考えていることが多く、ケアを行っても上手くいかないことがあります。1人で考えるのではなく1階フロア全体で考える必要があります。1階フロアでは偶数月に1回認知症の勉強会を開催しています。勉強会では事前に出された課題を持ち寄って話し合ったり、ケースカンファレンスを実施したりしています。その中の一部を、報告します。

利用者Aさん

認知症。2型糖尿病、高血圧症

尿意、便意、曖昧。

日中トイレ誘導、夜間オムツ対応。

・困っている事

夜間、入眠されず不眠であり、毎晩脱衣みられ、オムツを触ったり、外したりされることがある。時々オムツのパットをむしったりされることもある。放尿も見られる。

・取り組み

まずは認知症についての勉強会の実施。

Aさんの情報収集を各自で集めてきてもらう。

各自で集めた情報をもとに、なぜそうするのか小グループで考察する。

小グループで話しあった内容を確認しどうしていくか計画を立てる。

・原因の把握

不眠の原因

オムツを着用することによる不快感や糖尿病からの搔痒感。

日中の覚醒状態（盗食予防の為一人席におられ傾眠していることが多かった。）

脱衣の原因

頻尿と衣類の不快感（ズボンのゴムがきつかった）

・実施

日中の活動量と関わりを増やす。円テーブルで過ごし若い時にしていたそろばんや計算問題の提供。本人の好む作業を検索していく。

オムツを中止。トイレ誘導後入眠してもらう。夜間Pトイレ設置し改良コールなったらトイレ誘導し残尿が無いように腹圧をかけしっかりと排尿してもらう。

夜間パジャマに変更。搔痒感にはワセリン塗布し対応。

フロア会議で実施した評価や修正を行なう。

結果

計画を実施した結果。夜間、ポータブルトイレに誘導する事により、放尿をされることが減少した。また、オムツを外されることも少なくなった。

日中の活動量を増やすことや、パジャマに更衣する事で、日中と夜間のメリハリがつき良眠することが出来た。毎日パジャマに更衣する事でAさんの口からも「寝るんか」という発言がみられた。

考察

担当1人では考察しきれないことも、皆で意見を出し合い考えケアする事で、脱衣なく夜間入眠されるようになった。目標が明確になったことで、チームの皆は、どのようなケアを行ったら良いか考え、実施することができた。

今回のAさんのケースを通して、改めて認知症のことを理解でき、以前と違った視点でのケアを行なうことができた。入所時の情報を把握し共有することで、日々のケースカンファレンスでの多くの気付きや、他職種で意見を出し合い連携し計画を行い、評価し課題を明確化して、目標を立てることで、どのようにケアをしたら良いのかが分かり、よりその利用者のニーズに合わせた介護が出来ると考える。

現在の取り組みと今後の課題

現在、新型コロナにより全職員集まっての勉強会が出来ていないのが現実ですが、小グループに分け勉強会を実施しています。今までは主任クラスの方から課題やテーマを決めて話し合ってきたが、職員一人一人が学びたい認知症についての意見を聞いているので今後はその意見をもとに勉強会を開き、職員が認知症の事をさらに理解することでより良い介護が提供できるのではないだろうか。また、困ったことがあれば担当一人で考えていくのではなく、チームで情報を共有し、利用者に合ったケアを行っていきたい。